

知事記者会見の概要

日 時：平成30年2月6日(火) 10:00～10:51

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報推進課長

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 国連世界観光会議を終えて

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 蔵王山火山活動の状況及び県の対応について
- (3) 東北中央自動車道（福島大笹生 IC～米沢北 IC）開通の効果について
- (4) 平成30年1月1日現在の本県人口への所感と対応について
- (5) 冬季の観光誘客に向けて東北各県が連携する会議の構想について

<幹事社：山新・時事・SAY>

☆ 報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

毎日、寒い日が続いております。カレンダーの上では立春も過ぎましたけれども、大陸から非常に強い寒気が流れ込むとともに、発達する低気圧の影響のため、県内では、現在、庄内地域に暴風雪・大雪警報が発令されているなど、本日の夜にかけて庄内地域を中心に暴風雪となる予報が出ております。

また、今朝は米沢で-15.8℃を観測するなど県内各地で冷え込みました。平年より気温の低い日が今週も続くと見込まれているところであります。

県民の皆様には、雪下ろしや除雪作業中の事故をはじめ、スリップや転倒事故などがないように、くれぐれも安全にご留意くださるようお願いいたします。

また、水道管の凍結防止などにも十分ご注意くださいと思います。

それから、インフルエンザの流行も続いているところです。県民の皆様には、手洗いや咳エチケットなどを徹底し、インフルエンザにかからないよう、引き続き、ご注意くださいと思います。

さて、いよいよ、平昌(ピョンチャン)冬季オリンピックが今週の金曜日に開幕いたします。

本県からは6人の選手が出場します。

県では、出場される選手の応援横断幕を県庁1階のロビーに掲げて、応援気運の醸成を図っているところです。また、応援のためのパブリックビューイングが予定されているようでもありますので、ぜひ、多くの皆様に足を運んでいただき、山形の地から熱いエールを送ってくださるようお願いいたします。

出場される6人には、ぜひメダルを獲得し、県民に活力と元気を与えていただくよう、期待をしております。

それから、2月1日から4日まで、東北では初となる「国連世界観光会議」を本県で開催いたしました。

約30の国と地域から観光関係者やメディア、政府関係者など約300名にご参加いただき「雪と文化」を活かした新しいツーリズムの可能性について議論を交わしました。

このほか、初日の歓迎レセプションでは、文翔館を会場に、本県の食と文化を堪能いただいたほか、3日と4日は、やまがた雪フェスティバル、蔵王の樹氷や伝統文化体験などを盛り込んだ県内の視察ツアーを行いました。

また、会議に併せ、海外からの観光事業者を招いて、本県や東北への旅行商品造成に向けた観光商談会を開催したところであります。

影響力・情報発信力の高い方々に多数ご来県いただきましたので、本県の冬の魅力を体験し、世界に向けて発信いただく絶好の機会となったのではないかと考えております。

この会議を契機に、東北各県とも連携しながら、雪を活かした一層の観光誘客を進め、

インバウンド拡大に結び付けていきたいと考えております。

そして、2日から4日まで、寒河江市の「最上川ふるさと総合公園」を会場に、第3回「やまがた雪フェスティバル」が開催されました。

期間中、天候にも恵まれ、若者やお子様連れのご家族など、大勢の人で賑わいました。また、アジアをはじめ、外国からのお客様が大量ご来場され、3日間の来場者数は、20万3千人となり、昨年よりも1万2千人、約6.2%にあたりますけれども、増えたところでありませう。

今回は、西川町や飯豊町の雪祭り関係者のご協力により、2基の大型雪像を新たに造ったほか、地元企業などからご協賛をいただき、内容を充実して開催することができましたので、ご来場の皆様に、十分楽しんでいただけたのではないかと考えております。

また、「UNWTO 雪と文化の世界観光会議」への参加者もご来場されました。雪合戦などの雪遊びも体験いただくなど、山形の冬の魅力を楽しんでいただきました。

県内では、今後も個性豊かな雪祭りが順次開催されますので、国内外に“山形の冬の魅力”、“雪の楽しさ”を積極的にPRし、冬季の観光誘客の底上げ・拡大に結びつくよう取組みを進めてまいりたいと考えております。

では、恒例となりました、イベントや祭りのご紹介であります。

2月9日から12日まで、高畠町で「まほろば冬咲きぼたんまつり」が開催されます。わらで編んだ“こも”の中で、見事なぼたんの花が咲き競います。

また、2月10日から12日まで、米沢市で「上杉雪灯籠まつり」が開催されます。松が岬公園一帯を主会場に、約300基の雪灯籠と1,000個の雪ぼんぼりに明かりが灯され、会場が幻想的な雰囲気に包まれます。

ほかにも今週末に、新庄市で巨大雪像展示や雪上運動会などが行われる「新庄雪まつり」、そして上山市では、ミノを被った若者に祝い水をかけて五穀豊穡・商売繁盛を祈る民俗行事「加勢鳥（かせどり）」が開催されます。

県民の皆様も、ぜひ、お出かけいただければと思います。

私からは以上であります。

☆ 代表質問

記者

さくらんぼテレビの白田です。

先ほど知事からの発言にもありましたが、国連世界観光会議について伺いたいと思います。

1日から4日まで開かれた会議、関連イベントについての改めての所感と、開催によって得られた成果や効果を具体的に教えてください。

それと、今後の山形県の冬場の観光振興について、具体的にどのように展開していこうと考えているかを教えてください。

知事

はい、わかりました。

本県では、これまで、雪国ならではの文化や食を守り育てながら、雪を楽しむため工夫を凝らしたイベントを開催するなど、雪を味方につけた観光振興に努めてまいりました。

こうした中、観光部門における世界最大の組織であり、世界の観光の最前線で活動されている国連世界観光機関、UNWTO の国際会議が、このたび本県で開催され、ここ山形から、「雪と文化」を活かした新しいツーリズムの可能性について、世界に向けてメッセージが発信されたことは、大変意義のあることであったと思います。

参加者からは、山形県のおもてなしや、人の温かさに感激したなどのお言葉をいただきましたほか、ゴールデンルートにはない、日本の原風景が残る山形県の美しさや文化の深さに感銘を受けた等の感想が寄せられたところでもあります。

また、9 か国・地域から 33 の旅行会社を集めて開催した商談会には、本県を含めて東北から 70 の観光事業者が参加し、熱気のある商談が交わされたところでもあります。冬をメインとした旅行商品の造成の実現により、今後のインバウンド拡大に大きく弾みがついたのではないかと期待をしているところでもあります。

会議を通して、「雪と文化」が観光の目的となることを改めて広く認識され、私としましても先人が育んでくれた雪国の文化を守り、観光資源としての魅力と価値を高めながら、次世代に継承すべきとの意を強くしたところでもあります。

会議に参加された UNWTO のリファイ前事務局長は、「観光とは、お互いの国を訪問し、実際に見て、体験し合うことで、理解と寛容を促す」というふうにおっしゃっておられました。非常に、平和に貢献するという面があるというふうなことだと私は思っております。

こうした面も含め、今回の会議が、観光に携わる方々の新たな気づきとなり、より一層の観光振興に結び付くことを期待しております。また、会議には、県内からも多くの観光関係者が参加されておりましたので、皆様との連携をさらに強化し、冬の魅力を山形に住んでいる住民自らが楽しみながら、様々な冬の観光振興に取り組んでまいりたいと考えております。

今後の冬の観光振興につきましては、まずは、スキーやスノーボードだけではなく、スノートレッキングなど多様なスノーアウトドアを体験できるほか、雪国ならではの食材、また調理方法を楽しむガストロノミーツーリズム、冬の伝統行事や祭りなど、数えきれない「雪」の魅力が、山形はもちろんのこと東北にはたくさんあるわけではありますが、これまでそれが十分に伝えきれていないのではないかとこのように思っております。

雪国山形の生活の中で育まれてきた知恵や伝統を誇りとして、冬の食や温泉などと組み合わせ、冬の山形、冬の東北の魅力としてもっともっと PR していかなければならないと思ったところでもあります。

特に観光客数が落ち込む冬場の底上げというのは、本県のみならず東北各県の共通の課題であります。今回の会議におきましても、東北各県からの参加を得て、課題を共有した

ところであります。

今回の会議を一過性のものとして終わらせないためにも、本県から東北各県に呼びかけまして、東北観光推進機構とも連携しながら、東北が一体となって雪を活かした観光を世界に発信するための新たな取組みを行い、「冬の東北」のブランド化を強力に進めてまいりたいと考えております。

そして、さらに本県におきましては、雪を基本軸とした、温泉、食、山岳資源、精神文化、伝統産業など、本県の強みであります観光素材を、テーマやストーリーを持たせながら、しっかりと磨き上げ、日本一の美食県、美酒県やまがたの存在感を大いにアピールしてまいりたいと考えているところであります。

以上であります。

記者

東北各県に呼びかけて新たな取組みを行うということについては、知事の中では具体的な何かイメージというのはありますか。

知事

はい。東北各県の観光事業者や行政関係者、さらに海外の旅行会社やマスメディアを集め、最新の冬季観光のトレンドなどの情報共有や先進的な取組み事例の紹介、さらには視察ツアーの実施などを主な内容とする、冬の観光を発信する「雪と文化をテーマとした東北観光会議」、あくまでイメージではあるのですが、そういった会議を継続して開催し、「冬の東北」のブランド化を推進することで、東北全体の知名度を高め、冬季間のインバウンド拡大を目指したいと考えているところであります。

☆ フリー質問

記者

時事通信の梅崎と申します。よろしく申し上げます。

今の代表質問に関連してなのですが、知事が今、「東北観光会議」みたいなものというふうなご発言がありましたが、その前提として、今回 1 点伺わせていただきたいのが、今回の国連世界観光会議については、東北各県からの参加状況というのはどうだったのでしょうか。

知事

はい。その具体的な内容については、担当のほうから答えてもらいます。

観光文化スポーツ部次長

観光文化スポーツ部の松田と申します。

参加状況でございますけど、東北各県の全県から行政の担当者においでいただきました。
それから、その他に東北観光推進機構でありますとか、そういった東北の連携する関係機関といったところも皆さんからお集まりいただいたところでございます。

知事

よろしいですか。

記者

はい。そういった方々ともお話された上で、今後、東北観光会議みたいなものを各県の長ですとか担当者の方向けに提案、提言されていくというようなことでよろしいですか。

知事

ええ、まずはですね、今回 UNWTO の会議をやったわけでありまして、これからの具体的なことについては、これから呼びかけていくのではないかとと思いますが、どうですか。

観光文化スポーツ部次長

はい、そのとおりです。呼びかけといったところは会議の中でも知事から発言があったところでありまして、具体的には事務レベルでまずいろいろと調整をしまいたいというふうに思っております。

知事

よろしいでしょうか。

記者

はい。最終的には、知事が呼びかけるかどうかという判断をされるのかなと思うのですが、知事としては、各県に呼びかけたいというご意思があるということですね。

知事

そうですね。知事になってから、私は、ほかの県の知事たちがいらっしゃるところで「夏祭りは連携しているけれども、冬祭りといったことも連携しましょう」といったことを呼び掛けたことが、自分で覚えている限りで2回ぐらいはございまして、なかなか進まなかったのでありますけれども、今回この UNWTO の会議がありましたので、しっかりと呼びかけて、前に進めたいなと思っております。

記者

では、今回、世界国連観光会議を開いたということもございまして、山形県がリーダーシッ

プを取ってやっていきたいというお考えですか。

知事

そうですね。お声掛けをさせていただければというふうに思います。

記者

わかりました。具体的には、「東北の絆まつり」みたいなものの冬バージョンのイメージでしょうか。

知事

そうですね、東北各県、どこも雪国でございますので、それぞれいろいろなことをやっていらっしゃると思いますので、どういうふうになるかはまずお話し合いをしながらということになっていくかと思うのであります。

ただ、しっかりと「雪」を観光資源として打ち出す、そして東北全体が盛り上がるようにしていくということがやはりとても大事なことではないかと思っております。

東北観光推進機構のほうでもですね、東北が連携ということで、もうすでに取り組んでくださっておりまして、東北 6 県の知事で海外にも一緒に行っておりますけれども、冬について、雪について、特に強化するというようなところまではちょっと行ってないかなと思いますので、案外、冬、雪の力というものが、外国の人々にとっては大変魅力のある資源だというふうに、今回さらに認識しましたので、その意識を共有しながら、一緒になって PR していければ、東北が盛り上がるのではないかなと思っております。

記者

わかりました。まだイメージの段階で、これからお伝えするということでしたけれども、いつ頃とかというイメージはありますでしょうか。

知事

機会を捉えてということになるかと思っておりますけど、担当とこれから話し合うという段階であります。

以前、各県の知事が一緒になった時に、冬の連携ということを申し上げた時に、岩手県知事が、「賛成、いいね」というふうにおっしゃったような記憶もありますし、皆さん同じような意識は持っていらっしゃるのかなと思っておりますので、集まる機会があれば、すぐ一緒になって進めていけるのではないかなと思っておりますけど、具体的にいつというところまでは、まだわかりません。

記者

わかりました。最後、確認なのですけども、それは、冬のインバウンドということになるのでしょうか。

知事

はい、そうですね。東北は、インバウンドが弱く、一人負けの状況でありますので、冬は地元の人も楽しんで、そして、全国にも呼び掛けてはいるのですけども、やはりインバウンド拡大ということにですね、経済的な意味でも、平和外交といった意味でも、しっかり取り組んでいければというふうに思っております。

記者

朝日新聞の前川でございます。

知事、2点ございます。1点目は蔵王です。

今日でちょうど噴火警戒レベルが2に上がってから1週間が経ちました。気象庁のデータによれば、警戒レベルを上げた時は火山性微動4回、そのあと2回かな、何回かあったようでして、まだちょっと火山が動いているかなという状況です。

一方で、昨日でしたか、山形県のホームページには「蔵王は（補足：「蔵王温泉街」は想定火口域から）5、6キロ離れていて、警戒すべき範囲外である」という地図を載せるなどしています。

とはいえ、草津白根山の経験からいってもですね、なかなか自然の動きは読み切れず、気象庁が言っていることの範囲で収まればいいのですけども、なかなか安全と観光・経済のバランスといいますか、というのは取りにくい面もあるかと思えます。

知事はこの1週間で振り返って、今後どんな対応をするべきか、あるいは蔵王周辺に住んでる我々は、どのように受け止めればいいのか、その辺のバランスについてはどのようにお考えでしょうか。

知事

はい、そうですね。蔵王で警戒レベル2に上がったということで全国ニュースにもなりまして、キャンセルも出たということを知りまして、風評被害を私は大変心配しておりました。安全対策ということに注力するのはもちろんでありますけれども、必要以上に言って風評被害が出るということも大変残念なことであると思っております。ずっと私自身も大変心配でありましたので、危機管理課のほうからどういう状況になっているかというようなことを聞いております。今のところですね、具体的には言ってもらえますけれども、それほどまだ地震や微動が多くなっているということではないようでありまして、今の状況を正しく認識しながら、正しく怖がるということもおかしいんですけれども、そういうことかなというふうに思っております。隠さないでしっかり情報を出すということと

同時にですね、地元の方は前回の経験で、火口からの距離というものも分かっておりますし、スキー場までの距離とかですね、その間に、温泉、スキー場までの間に山が2つあるとかですね、現実、そういうふうなことでありますので、気象台が公表している「火口周辺1.2キロは注意してください」というようなことでありますけれども、だいぶ離れていることも事実でありますので、地元の方がしっかりとそのことを発信するというのは、私は大事なことだと思っております。だから必要以上に風評被害が出ないようにするためには、地元に住んでいる私たちがですね、普通の生活をしている状況だと、スキーも楽しんでいられる状況だというようなことをビジュアルとしてお見せしていくことが、周知していくことが最もいいのではないかなというふうに思っているところであります。

記者

ありがとうございました。2点目は東北中央道で、開通して何か月か経ちました。国土交通省の調査によれば、交通量も相当増えたようです。荘内銀行系のフィディア総合研究所の調査によると、GDPの底上げ効果もあるそうです。1,800億円ちょっと使っていますので、多少は経済効果がないと困るのかもしれませんが、知事は、走り出したこの東北中央道について、効果やこれまでの状況をどのように評価されてますか。

知事

はい、昨年11月4日に開通式を行ったわけでありまして、8,972mのトンネルを含む、福島・米沢間の道路が供用になったということは、本当に歴史的な慶事であったと、喜ばしいことであったというふうに思っております。第1番目に挙げられるのは、やはり、安全性だと思っております。山岳区間でありまして、雪が降っても、安全に走行できるようになったということがやっぱり最もありがたいことかなというふうに思っているところです。

それで無料トンネルということもあるのですが、交通量も大変増えたというふうに聞いておまして、目の前の効果としては、私もおそば屋さんとか、ラーメン店とか飲食店などに入ってみますと、米沢でお客さんが増えたという、大変喜ばしい現場の声を聞いております。ですが、中期的に見るというようなことも大事だと思っております。まだまだ、まちづくりというようにしっかりとやっていくべきではないかなと思っているところであります。

要するに、道路というのは何のための道路なのかということでありまして、生活道路とかね、経済的にも、観光の面でも非常に効果が高いとは思っておりますけれども、これから東北中央道はどんどん繋がっていきますと、通過するだけというようなこともあり得るだろうと思っております。置賜地方で観光していただけたら、そういったことにしっかりと注力していくべきではないかなというのがひとつあります。

あと、道路が繋がるということで企業立地とかですね、いろんな面で効果が出てくるの

ではないかなとも思っております。やはり、心理的距離が縮まるといいますか、首都圏との（補足：「時間的な」）距離が縮まりますので、そういった意味で、県外からも来ていただける一方、県内から県外へ出て行くということも考えられます。例えば、雪を大変に思っている方々が、やっぱり県外のほうに、逆に移動していったりというような、マイナス面を私は心配してるところであります。ですから、精神的に雪といったものを前向きに捉えるような、雪と文化といった取組みもしっかりやっていきますけれども、まちづくりというものをしっかりやってですね、住みやすい、お買い物したり遊んだりできる、若者や女性がここで生活したいと思えるようなまちづくりをですね、米沢市、置賜地域でしっかり取り組んでいただければなと思っているところでございます。

記者

ありがとうございました。

記者

YBCの高山です。今年1月1日現在の県の人口が110万人を割り切って、109万9,162人まで落ち込んで、昭和5年以来だという、低い人口になってしまったんですけれども、この人口の減少に対して、知事の現状認識と、今後の対策等について聞かせてください。

知事

はい、分かりました。このたび、県による毎月の本県人口の推計におきまして、平成30年1月1日現在の本県の人口は、109万9,162人となりまして、110万人を下回ったところでありまして、本県の人口は近年、毎年1万人程度の減少が続いておりまして、その約7割が自然減少であります。約3割が社会減少ということで推移をしております。今回の推計結果についても同じような傾向にあったものであります。これに見られますように、本県の人口減少は主には、高齢化の進行に伴い、死亡数が出生数を上回る自然減少が年々拡大しているという、構造的な要因が大きいものと認識されるところであります。

こうした中で、社会減につきましては、最近、平成29年度を見ますと、新規高卒者を含む15歳から19歳の転出超過数に改善が見られたところであります。これまでの進学先の拡大ですとか、雇用の場の拡大といった取組みがその改善につながったのではないかと考えております。

人口減少につきましては、産業活力の低下や地域コミュニティの弱体化など、さまざまな影響を及ぼすことが懸念されますので、今回の推計結果を踏まえ、改めて危機感を持って、出生数の増加や若者の県内定着、県内回帰、Iターンも含めですね、そういった促進など、自然減少、社会減少の両面から人口減少対策に鋭意取り組んでいかなければならないという思いを強くしたところでございます。

県としましては、人口減少の克服に向け、若い世代の出会い、結婚から、出産・子育て

までの希望実現のために、「やまがた出会いサポートセンター」の運営強化や、保育施設の整備拡充、保育人材の育成確保などを図りますとともに、仕事と家庭生活の両立を図る、ワーク・ライフ・バランス、いわゆる働き方改革の推進や、女性の活躍促進など、社会全体での子育て支援の環境づくりを進めてまいります。

また、若者が希望を持って山形で学び、働き、暮らし、活躍していただけるように、子どもの頃から郷土への愛着を育むことや、進学先の拡大、県と首都圏の大学との連携によるU・Iターンの促進、それから正社員化や所得の向上に向けた支援など、これまでの取り組みを一層進めてまいり所存であります。

更に今後は、県内の高校生に県内の高等教育機関に関する情報の提供や、体験する機会を拡充し、県内での進学を拡大してまいりますとともに、市町村とも連携して住宅の整備をはじめ、新規就農や若者の創業支援など、働く場の充実・拡大などを展開し、若者の県内定着、県内回帰を更に強く推し進めてまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございました。

記者

共同通信の神戸です。観光の話に戻るんですけども、先ほど、山形にゴールデンルートにはない日本の原風景のようなものがあると、それが魅力になっているということをおっしゃいましたけれども、知事ご自身が、今回の会議を通じてですね、山形県ないし、この東北地方に、どういった魅力があるということ再認識されて、かつ、その打ち出し方、今まで何が足りなかったのか、これからどういうふうな形でそれを流出させていけばいいのかということ考えられたかということについて、改めて、伺えればと思います。

知事

はい、そうですね、ゴールデンルートといいますと、東京とか大阪、京都といったところだと思いますけれども、大都会ではないという、ひと言で言えばですね、日本の原風景がいまだに残っているというところだと思います。外国の方が日本にいらっしゃるときというのは、ご自分たちと同じところといいますか、共通のところを求めて来るのではなくて、やはり日本らしさというのを求められるのではないかと考えております。東京や大阪、京都というのはそれなりの良さがあるわけでありましてけれども、ミニ東京とかミニ大阪ということではない魅力が山形県や東北、地方にはあるわけでありまして。非常に雄大で美しい豊かな自然があるわけでありまして。のびのびとアウトドアを楽しめるということがあると思います。山がありましたり、そこで健康的なトレッキングとかいろいろな経験ができます。農業体験もできれば、伝統文化の体験などもできるわけでありまして。そして、精神

文化、山形県の場合は、東日本随一の精神文化がありまして、そこで外国人の方にとっては「ミステリアス」という表現をされますけれども、そういった体験ができるわけですね。非日常を求める旅行者にとりまして、非常に魅力的な資源がたくさんあるのが山形、東北ではないかなと思っているところです。

先ほども申し上げたとおり、雪は非常に大きな資源の一つだというふうに思っております。スキーやスノーボードといった、いわゆるウィンタースポーツが好きな人はもちろん魅力を感じるとは思いますが、雪景色とかですね、雪遊び、また、雪に関する文化を体験するといったことも意外と簡単にできると言えますか、いろいろな準備をしなくてもですね、体験できることだというふうに思って、お手軽に雪と親しめるということがあると思えます。

それからやはり、山形県、東北は食料の宝庫でもございますし、酒蔵もたくさんあります。そういった意味で、食文化の体験、ガストロノミーリズムも非常に魅力ではないかなというふうに思っております。

生産現場というものも体験できるわけでありまして、そこに住んでいる人たちとのふれ合いと言いますか、温もりのある関わりができるというのもやはり、地方の魅力ではないかなと思っております。

伝統産業というようなものもありますし、多様な魅力がたくさんあって、ここで、私が全部を申し上げるのはちょっと大変なのでありますけれども、ゴールデンルートにはない魅力というのがたくさんあります。

ということで、ゴールデンルートも楽しんでいただいて、何回も楽しんでいただいたら地方の良さを体験していただくのが良いのではないかなというふうに思います。

記者

併せてなのですけれども、先ほど、インバウンドについては、東北は一人負けというようなお話もありましたけれども、これまで打ち出し方として何が足りなくて、今回の会議を通じて今後やり方をどう改善してさらに充実させていけばいいのかというような部分についてはいかがでしょうか。

知事

そうですね。それについては、今からしっかりと担当部と検討したいというふうに思っておりますけれども、私自身が思いましたのは、やはり、いろいろな資源です。その資源と資源の組み合わせですね。雪なら雪だけじゃなくて、雪と温泉、雪と体験、雪と酒蔵といったふうに、いろいろな組み合わせができる。そして、今まで雪というのは、どうしてもスキーとか、そういったところにばかり目がいったと思っておりますけれども、地元の子どもが楽しんでいる雪遊びといったところを樹氷、スキー場も紹介しながら、雪遊びといった、非常に身近なツールというのでしょうか、そういったものをもっとご紹介する

というのが大事なと思っておりますし、また、雪国同士でのいろいろな情報共有、今回は私もちょっとばかり聞かせていただきましたけど、新潟とかですね、あと、他県の方のいろいろな取組みということを知っているほどだったり、お互いにいろいろな共有できて、一緒になって発信できるなと思ったところがたくさんありますので、雪国の中での広域連携といったところは、やはり今まではなかったところだなというふうに思っております。

記者

河北新報の宮崎と申します。雪関連で追加で教えてほしいのですけれども、国連世界観光会議の時にですね、知事は、東北での雪をベースにした会議の呼びかけをされたのですか。東北で連携して会議をするということについて、会議の場で知事から何らかの発言があったのでしょうか。

知事

そうですね。各県と連携して、冬の東北の観光の底上げと言いますか、そういったことに取り組んでいきたいというようなことを申し上げたところであります。

記者

それは、会議をしましょうということを提案した形ですか。

知事

会議ということはちょっと申し上げていなかったかなと思いますが、連携してということをお願いしたと思います。

記者

わかりました。先ほど、会議を呼びかけるというような話を伺ったのですけれども、このような公式の場でおっしゃったということは、既にある程度のたたき台があると思うのですけれども、その辺のたたき台、イメージみたいなものはあるのでしょうか。

知事

たたき台というのは、まだございませんけれども、担当ともですね、せっかくUNWTOで、「雪と文化」というテーマで、東北で初めて山形県で会議が開催されましたので、これをいい機会にして、これから東北連携して持ち回りの感じなのかなと話をしているところです。まだ具体的にはありません。

記者

わかりました。あと、それについては、調査費含めて当初予算とかはつけているのでしょうか。

知事

それは、担当、どうですかね。

観光文化スポーツ部次長

予算につきましては、これから改めて説明ということにはなろうかと思いますが、今の段階ではそれも含めて検討しております。

知事

よろしいでしょうか。

記者

いや、申し上げたいのはですね、知事が呼びかけたという話になると、明日の記事の取材をして、より具体的な内容を盛り込みたいというふうになってくるのですよ。それが全く知事の思いつきだったりすると、こちらは記事を書けないわけなので、公式な場で発言しているのであれば、そういうたたき台があるというのが当然だと思っているのですが、いかがですか、という質問なのです。

知事

そうですね。インバウンドに力を入れたいということは申し上げておりますし、インバウンドと言いますと、だいたい外国から島国の日本に来る時は、飛行機でいらっしゃったりして、滞在型ということが考えられますので、その滞在型観光客を東北に呼び込むということではやはり、広域連携するのがとても大事なというのが背景でございます。

それで、これまでも何回か「冬の連携しましょう」ということは言ってきたのでありますけれども、今回を契機にということで、しっかり前に進めたいという思いであります、たたき台までできているかどうか、ちょっと担当に聞いてみたいと思います。

観光文化スポーツ部次長

いえ、今回の国際観光会議を契機に、また皆さんで改めて認識したことがあるということですので、それをまた事務レベルでいったん認識を共有して、それから積み上げてまいりたいというふうに考えてはおります。

知事

よろしいでしょうか。

記者

わかりました。1点確認なのですけれども、今日、知事の思いということで発言されたということなのですね。

知事

そうですね。思いは前からずっと持っております。

記者

山形新聞の田中です。私も観光の観点で1つだけ教えてください。

これから東北連携を呼びかけていきたいという知事の話がありましたけれども、例えば、これまでも東北観光推進機構で、台湾・香港と2回、各県知事で連携して雪をプレゼンしてきたりとかですね、これまでの北海道・東北知事会議でも「雪を資源に」ということで、岩手の達増知事とか、北海道の高橋知事とかとも様々そういった意見交換があったかと思えます。その中で、今回の会議も踏まえてですね、東北連携、広域連携でやるべき課題ということとですね、あとは山形県として冬の観光振興を図っていくための課題、山形県単独でやるべき課題と広域連携でやるべき課題、この2つの大きい流れ、大きいテーマというのは、知事はどのように考えておられますか。

知事

はい。大変、大きな課題があると思っております。

まず、そうですね、予算をつけてパーッと大きく走るといようなことはどうなのかなと。しっかりと連携して意識を共有して進めていく、それはお互いのそれぞれの県内で、雪まつりというものにもしっかりと力を入れていこうというよな、やっぱりそこが大事だと思っておりますし、北海道は「さっぽろ雪まつり」という大変大きなものがありますので、できているのかなと思いますけれども、東北にあっては、「秋田のかまくら」があったりしますけれども、山形県でも「雪フェスティバル」というのを始めており、それぞれの県でやはりしっかりと力を入れていくというのがまずは大事なのかなと思っておりますし、同時並行して、事務方でありましたり、トップ同士が意識を共有するのはもちろんでありますけれども、事務方でしっかりと積み上げていくということが大事かと思っております。

そこは第1歩で、あとはやはり交通手段ですかね。夏祭りの連携ですと、バスによる東北夏祭りツアーというような感じで定着してきております。あれを将来的に冬にできるようになるといいなという思いではありますが、6県をどうやって冬に巡るのか考えた場合、高速

道路で繋がっているところはいいのですけれども、つながっていない県と県の場合、道路、交通・社会インフラと言いますか、そこがやっぱりとても大きな課題になるのではないかなというふうに私は思っております。

あと、その受け入れ体制ということも、やっぱり本県などはまだまだでありますし、要するにインバウンドの受け入れ体制ということにもやはりしっかりと取り組んでいかなければいけないというふうに思っております。これは、たぶんいろいろな県に共通する課題ではないかなと思います。

あと、県内ということになりますと、今言った滞在型を進めていくということが大事でありますので、除雪とかですね、冬場の道路、交通インフラの整備ということと、そして受け入れ体制というのは、やはり必ず出てくる課題ではないかなというふうに思っているところです。